

インタバーズの挑戦

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期の課題「バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」は、メタバースを活用した新たな経済圏の拡大と、日本産業の競争力強化を目指す取り組みだ。

2030年には世界市場が1兆ドル規模に成長すると予測されることから、この課題では小売り、教育、移動など実社会と結び付くアプリケーション領域に着目した。

特徴は、メタバースで生まれた行動や価値を実世界へ還流する仕組みを「インタバーズ」と位置付けた点だ。視覚・聴覚だけでなく、触覚・固有感覚、味覚・嗅覚

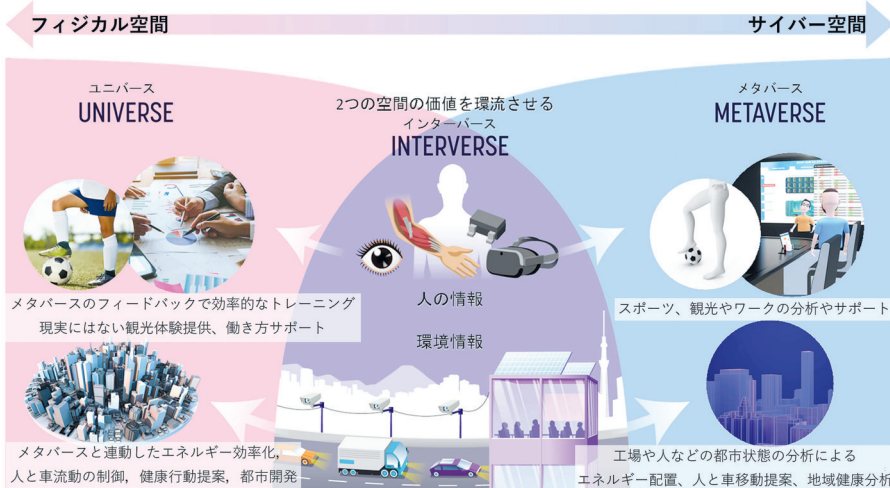


を活用し、日本の「現場」が持つ暗黙知や身体知をデジタル化して新たなサービス創出につなげることを目指している。

採択された9件の研究開発では、超音波による空中触覚提示技術を活用した癒やし・睡眠支援サービス、重量感や姿勢を感じる固有感覚の伝達によるスポーツトレーニングや遠隔ロボット操作、フードプリンターを用いた介護食や新しい食体験の創出などが進展している。

触覚や味覚などの多様なデバイスを活用するためのソフトウェア

実世界と仮想世界をつなぐ



基盤整備も推進している。

20社以上が参加する人間拡張コンソーシアムでは、インターフェース・アーキテクチャの標準化に取り組み、コンテンツ創作者や企業の参入を促進している。

近年、メタバースへの過度な期待は落ち着いた一方、フィジカルAIへの関心は急速に高まっている。仮想世界で学習し実世界で活用するという潮流のなか、インタバーズは重要な役割を担う。

SIPでは、フィジカルAI時代のバーチャルエコノミーにおいて日本産業が主導権を発揮できる技術環境づくりを進めている。

SIP 第3期課題
「バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」/
新エネルギー・産業技術総合開発機構

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）

